

「頭脳循環」 ロンドン出張報告

出張者：田辺明生（京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科・教授）

出張期間：2012年1月26日～2月1日

出張先：ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス (LSE)、ロンドン大学スクール・オブ・オリエンタル・アンド・アフリカン・スタディーズ (SOAS)

出張報告：

1月27日には、「頭脳循環」事業を含むこれからの学術交流および教育研究に関する相談を、Jonathan Liebenau氏 (LSE)、Urvashi Soni-Sinha氏 (University of Windsor, Canada)、Madhulika Banerjee氏 (University of Delhi, India) と行った。日本、インド、ヨーロッパの間の三角交流の必要について合意し、これから学術交流を積極的に検討することとなった。またロンドン大学スクール・オブ・オリエンタル・アンド・アフリカン・スタディーズ (SOAS) の図書館を見学した。

1月28日には、“The Diversity-driven Path of Economic Development: Small-scale Production, Commodity Consumption and Socio-cultural Representation in Modern India”と題する国際会議に general discussant として参加した。上記の3名に加え、Claude Markovits 氏 (Former director of CNRS, France) 氏、Janet Hunter氏 (LSE, UK)、Anjana Singh氏 (LSE)、Srirupa Prasad 氏 (University of Missouri, USA)、Giorgio Riello氏 (The University of Warwick, UK) らが会議に参加し、活発な議論と意見交換をした。なお日本からは、三尾稔氏（国立民族学博物館）、大石高志氏（神戸外国語大学）、井坂理徳氏（東京大学）、神田さやこ氏（慶応大学）、また頭脳循環でロンドンに派遣中の飯田玲子さん（京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科）らが会議に参加した。

1月29日には、Crispin Bates 氏 (Edinburgh University) および池亀彩氏 (The Open University) とこれからの国際学術交流について意見を交換した。

また頭脳循環でロンドンに派遣中の飯田玲子さんにたいして研究指導を行った。飯田さんは当初SOASへvisiting research scholar として所属することを検討していたが、結局、ロンドンの諸大学のセミナーに参加したり、英国博物館の図書館を利用しながら、研究したりすることを選択した。その背景には、イギリスの大学の受け入れ費がきわめて高額なことや、あちらの学期とこちらの派遣期間がずれていること、などがある。



LSE での国際会議